

「読者の広場」



HES 会員の電子ひろばをつくろう 電子掲示板か、メーリングリストを

地球エネルギーシステム研究所
佐野 寛

1. 会員の疑問には誰が答えるか

HES（水素エネルギー協会）会員が会うのは年に数回しかない。一方、HES の抱えている課題は山ほどある。例えば

- ・2次エネルギーである水素エネルギーは、電力とどう棲み分けするのか？
- ・水素を、将来、何からつくるのがよいか（目先は、市場原理で一番安い化石燃料からでもいいとしても）？
- ・今の、化石燃料よりも高い水素には、どんな用途がふさわしいのか？

等々いずれも、会員が質問して、役員か誰かが、決まった正解を教えてくれる、というような単純な筋の話ではない。だからこそ、協会があるわけである・・・それにしても、その疑問をぶつける場も、答える場もないなあ。会員の多くは、常日頃、そんな疑問を胸にかかえながら生活しているのである。

2. 会員が相互に知恵を出し合うしかない

会員の討論会を常設したら、どうか？いや、旅費も世話役もないし、第一、多忙な会員には再々、集まる時間もなからう。・・・ならば、バーチャル討論会を、常設したらどうですか？電子掲示板かメーリングリストを開設すれば、初歩的な質問から高級な意見に到るまで、自在に書き込める。参加する会員は議論するのに移動しなくてもいいし、旅費も予算も世話役も（ほとんど）いらぬし、ちゃんと議論データの蓄積ができるし、公開記録も残る。この議論が面白くてたまたまなれば、そのQ&Aに参加したいために会員になる人も出てくる。（他の学会では、実際にそんな実例もある）

協会運営側としても、期待できそうな効果がいくつもある。例えば、将来ビジョンを投げかけて、あらかじめ揉んでもらう、というのもよいし、意見公募にも絶好である。運営者が孤独な戦いを強いられている時には励ましの言葉も期待できる。それから、外部講師に講演依頼する時に、「HES 会員は何をを考えておられるのですか？HES に今どんな話題がありますか？今のレベルは？」など聞かれたら、すぐ「最近の記録」を見せてあげればよい。そうすれば、会員のニーズに沿った講演をしてもらえるのではないだろうか。

3. 「常設の会員討論会」に電子ひろば

手続き・準備：理想的には事務局が電子掲示板やMLを立ち上げ、運営（呼びかけやテーマ提示等）の面倒もみる、ということだろうが、人手が足りない（予算は別にいらぬ）。そこで、（会員には他学協会でのメーリングリスト出入りしている方々も多勢おられるようだし）会員有志に立ち上げて頂き、会員には会誌で紹介し、参加を呼びかけてもらう。最初は、議論がし易いように、小型のモデルテーマを複数、提示して会員に意見を求めるのも必要であろう。どんな論議のしかたがいいか、というのはどこの掲示板でもやりながら決めて行くものである。

—電子掲示板かMLかHP 投稿欄か—

運営方法や期待成果に、たいした差があるわけではないから、やり易い形式を採ったらいいわけである。一般的にいうと、「会のホームページ（HP）投稿欄」では一方的に質問し、事務局が返事するようなことになり勝ちで、事務局負担が大きくなり、しかも会員相互の討論に発展して行かない恐れがある。

電子掲示板は、ヤフーなどがやっているのにトピック名乗りを揚げて乗っかれば、すぐにでも立ち上げできるが、会員限定でないため、まったくの無関係者が乱入して発言し、荒らされることがあるので、感心しない。

ML（メーリングリスト）は、個人の公開通信なので、管理者負担は少ないが記録が保存され難い（さかのぼって論議の記録を見ようとすると手間がかかる）欠点がある。

いろいろITに達者な方のご意見もお伺いしたいところです。さしあたり、十数人のHES評議員会をメンバーにして、モデル的に電子掲示板を立ち上げて一定期間、試行錯誤をやってみるのが、いいのでは？「常設評議員会」なんて、ちょっとかっこいいのじゃない？

4. 期待する効果：

会員議論の話題の中から、大会議題の中に出てくるものまで成長してくれば有難いし、個別テーマや調査研究課題などが発掘できる可能性もある。また、問題提起でなくても、進行中の話題の評判が聞ければ、当事者には勉強になる。そこまで行かなくても、会員中から人材が発掘されることもある。会誌に原稿を出してくれそうな題材や人材が見つかることは十分期待できる。会誌への投稿や研究発表に到らない軽い発言の場が会員に与えられると、大会などでは出ないなどの不満や要望などを吸い上げ、消化するチャンスになる。行く行くは、「HESの将来像」というような永続的なテーマに取り組めるようになればいい。